A-3　ソマリ語における 2 つの焦点構文により焦点化される構成素の統語的特徴*

上野瞭太 (東京外国語大学言語文化学部)

ry.waanabad@gmail.com

要旨：本稿ではソマリ語の肯定平叙文における焦点構文である ayaa 構文および waxa 構文の使用分布を記述する. ayaa 構文および waxa 構文は構成素の焦点化という機能を有し, 両構文の分布に関して形式的長さおよび構造的複雑性による傾向が先行研究で提示されている (Saeed 1999, Green 2021) が, この傾向に逸脱する例が多数存在する. そこで本稿では焦点化される構成素の統語的特徴に着目したコーパス調査を実施し, 各構文において焦点化される構成素の統語的特徴による記述を補填する. 調査の結果以下, S/A/不定人称文の P の焦点化で ayaa 構文が, P/適用項/存在文の S の焦点化で waxa 構文が好まれる傾向, および補文節の焦点化において waxa 構文が好まれる傾向が明らかとなり, 両構文の交替には文法関係, 項の性質, 構文 (不定人称文, 存在文) のという 3 つのレベルの性質が関係していると本稿は主張する.

1. はじめに

ソマリ語 (低地東クシ諸語) はソマリアなどアフリカの角 (Geeska Afrika) および欧米や中東などにおけるソマリコミュニティ (qurbajoogta) において使用されている. 音韻的特徴としては声調素として高声調が認められ, 形態素境界において分節音レベルの連声が見られる. 動詞はアスペクト接尾辞, 人称・数・性・時制・法を示すかばん形態素的屈折接尾辞および動詞前部において見られる接語群のポジションクラスにより構成される動詞複合体を形成する. デフォルト/支配的語順は先行研究において OV 型であるとされ (Dryer 2013, Skirgård et al. 2023, Green 2021 など), 名詞修飾においては一貫して主要部初頭型である.

本稿ではソマリ語における焦点構文である ayaa 構文および waxa 構文の分布について, その焦点化する構成素の統語的特徴に着目して記述する. 両構文の分布は Saeed (1999: 237) や Green (2021: 334-335) において, 焦点化される構成素の長さおよび複雑性に着目した説明が与えられており, 焦点化される構成素が長く複雑であれば waxa 構文が選択される傾向があるとしている. しかし, この例外となる実現形式が多数見られる.

本稿では構成素の統語的特徴に基づいた記述を補うことで, 焦点構文の交替に関する記述の精緻化を試みる. 本稿の構成は以下の通りである: 2 節でソマリ語の前提知識である焦点構文, 適用および不定人称文について概観, 3 節でリサーチクエスチョンの提示, 4 節でコーパス調査の実施, 5 節で議論, 6 節でまとめの提示. 本稿中の例文および表の番号, 例文の日本語訳については, 断りのない限り筆者による. 特記のない限り, 引用されている例文のグロスおよび形態分析は筆者により基底形に従って改変されており, 引用元と異なる点が多数ある. 出典表記のない例文は全て Leipzig Corpora Collection (2019) より抽出したものである.

2. 本稿の内容にかかわるソマリ語の前提知識

［焦点構文］ ソマリ語の肯定平叙文においては焦点標示にかかわる構文として waa 構文, ayaa 構文および waxa 構文の 3 つが認められる. このうち waa 構文は焦点なし (Saeed 1984; 1999, Green 2021 など) あるいは動詞焦点 (Andrzejewski 1975, Mous 2012 など) を示すと分析されているため, 本稿では ayaa 構文および waxa 構文のみに対象を絞る. ayaa 構文および waxa 構文は構成素の焦点化という機能を有し, ayaa 構文は接語=*ayáa* (口語においては=*báa* も出現) のホストを焦点化し, waxa 構文では形式 *wáxa(a)*が定動詞の前部に生起し, 定動詞の

* 本稿の執筆に際して石川さくら, 風間伸次郎, 小林剛士, 左近優太, 品川大輔, 鈴木唯, 髙橋翼, 中本舜, 長屋尚典, 長谷川朝香, 林真衣, 水野庄吾, 宮川創, 吉田樹生の諸氏 (50 音順) より極めて有益な指導, 助言をいただいた. ここに感謝の意を表したい. 言及するまでもなく, 本稿に残るいかなる誤謬も筆者の責任に帰する.

直後に位置する構成素を焦点化する．文焦点では ayaa 構文が用いられる[1]．本稿ではこれらの構文における焦点標示要素である接語類を焦点接語と呼称する．

(1)[2]ayaa 構文 (Green 2021: 299)

Akhbaártií ayáa tuuládii kú shaacdaý.

akhbaár-tii=ayáa tuuló-tií kú=shaac-taý

news-DEF.F.REM=AYAA village-DEF.F.REM around=spread-3SG.F.PST.RA

'The news spread around the village.'

(2) waxa 構文 (Green 2021: 335)

Wáxaan rejéynayaa ínaad nagá raáli ahaatáan.

wáxa=aan rejéyn-ayaa **ín=aad** **na=ká=raáli** **ahaatáan**

WAXA=1SG.SUBJ hope-1SG.PRS COMP=2SG.SUBJ 1PL.OBJ=about=satisfaction COP:2PL.IRR

'I hope that you will be satisfied with us.'

Saeed (1999: 118) は waxa 構文に関して，分裂文が焦点構文として文法化したものであると記述している．waxa 構文における形式 *wáxa(a)* は *wáxa* /wáx-ka/ 'the thing' という形式に由来し，男性定性接辞 *-ka* の /k/ は連声規則[3]により脱落する．分裂文では *waxa* を主要部とした関係節がコピュラ文の主語となっており，述語名詞は無生でなければならない (3a)．一方で焦点構文として文法化した waxa 構文では述語における有生性制約およびコピュラが消失している (3b). waxa 構文における焦点要素が分裂文における述語に対応している．

(3) a. *Wáxa yimí waa baabùur.*

wáx-ka yimí waa baabúur

thing-DEF.M come.3SG.M.PST.RA COP truck

'The thing which came was a truck.'(Saeed 1999: 118)

b. *Wáxa yimí nimán.*

wáxa yimí **nimán**

WAXA come:3SG.M.PST.RA men

'Who came was SOME MEN.' (Saeed 1999: 118)

両構文においては様々な文法関係を有する構成素を焦点化することが可能であり (Saeed 1999: 190-194), waxa 構文では副詞および不定量化詞の焦点化が避けられるという記述がある (Lecarme 1991).

ソマリ語においては定動詞の一致および動詞前部に位置する人称接語などを根拠に S/A を主語と認定でき，主語が焦点化される場合は ayaa 構文および waxa 構文のどちらにおいても定動詞が削減一致 (reduced agreement, Green 2021: 191) を示す．削減一致においては 3 人称単数女性および 1 人称複数を除き同一形式となる．通常，削減一致においては定動詞の最終音節に高声調が付与される．

［適用］ 非主要項は動詞前部スロットに生起する適用接語により導入され，フラッギングによる方策は用いられない．(4) の例文においては，場所を表す *baríiska* "the rice" が適用接語 *kú*=により導入されている．適用接語には *ú=/kú=/ká=/lá=*の 4 種類が認められる．本稿では適用により導入される構成素を適用項と呼ぶ．

(4) *Baríiska máraq kú dár!*

baríis-ka máraq kú=dár-Ø

rice-DEF.M broth on=put-IMP.SG

'Put broth on the rice!' (Green 2021: 279)

---

[1] 本稿の調査で使用するコーパスにおいては性質上文焦点の頻度が低いものと予想されるため，考慮の対象外とする．

[2] 本稿で用いるソマリ語の表記において注意すべき書記素は以下の通りである: <dh> [ɖ], <kh> [x], <c> [ʕ], <x> [ħ].

[3] k → Ø / {x, q, ħ, ʕ, ʔ, h}_

［**不定人称文**］ソマリ語の不定人称文においては動詞前部の接語スロットに不定人称接語 *la=* が生起し，定動詞は 3 人称単数男性で一致する. *la*=による不定人称文は他動詞節に限られる (Green 2021: 261).

(5) *Wáa la xaday.*

wáa la=xad-ay

WAA ISP=steal-3SG.M.PST

'It was stolen', lit. 'One stole it' (Saeed 1999: 76)

3. リサーチクエスチョン

本稿におけるリサーチクエスチョンは, ayaa 構文と waxa 構文における焦点要素の統語的性質に着目して説明が可能であるかというものである．両構文の分布に関して, Saeed (1999: 237) および Green (2021: 334-335) においては焦点化される構成素における形式的長さおよび構造的複雑さによる説明が与えられており, waxa 構文においては長く複雑な構成素の焦点化が好まれるという．しかしこの説明はあくまで傾向であるため, (6) および (7) のような例も確認される.

(6) *Wáxa nalá joogtá gabádh.*

wáxa na=la=joog-tá **gabádh**

WAXA 1PL=with=exist-3SG.F.PRS.RA girl

'The girl is staying with us.' (Green 2021: 335)

(7) *Guryaha guryaha ee ka agdhowaa xafiisyada muhiimka ah ee dowladda ayaa sidoo kale la qarxiyay.*

guryo-ka **guryo-ka** **ee** **ká=agdhow-aa** **xafiisyo-ta** **muhíim-ka** **ah** **ee**

house.PL-DEF.M house.PL-DEF.M REL from=near-3SG.PST office.PL-DEF.F importance-DEF.M COP.PST.RA GEN

dowlád-ta=ayáa sidoó kalé la=qarxi-ay

nation-DEF.F=AYAA also other ISP=blow.up-3SG.M.PST

「(イサーク虐殺の文脈で) 政府の重要な事務所に近い住居群もまた爆破された．」

上述の通り ayaa 構文および waxa 構文においては主語や目的語など様々な統語的性質を有する構成素が焦点化されうるが, Saeed (1999) の例示において，焦点項の統語的特徴として例示されているものは主語と目的語にとどまるため，先行研究の分類よりも仔細な分類を行い検討する必要がある.

4. コーパス調査

4.1. 概要

本稿のコーパス調査では Leipzig Corpora Collection (2019) における som_wikipedia_2021_10K から 1000 文を無作為に抽出し，そのうちの焦点接語 *=ayaa, waxa* を全て抽出する (ステップ①). このうち=*ayaa, waxa* が用いられている文例をそれぞれ 100 例ずつ無作為に抽出したのちコピュラ文を除外し，焦点化されている構成素の統語的特徴，すなわち S/A/P/適用項/副詞/その他 という枠を設け分類する (ステップ②).

ステップ①では som_wikipedia_2021_10K をローカルにダウンロードし, Google Spreadsheet において RAND 関数を用いた乱数を割り振り並び替え, 1000 文を無作為に抽出し調査対象とした．この 1000 文中の焦点接語 =*ayaa* および *waxa* を主語人称接語との融合形を含めて手作業で抽出した．ステップ②においては調査①で抽出された=*ayaa* および *waxa* のうち主節において唯一の焦点接語 (主節において=*ayaa* および *waxa* が同一節内に共起しないことを意味する) として出現している例をそれぞれ 100 例ずつ RAND 関数により乱数を振り無作為に抽出し，焦点化されている構成素を統語的特徴に基づき分類した．このうちコピュラ文の例を除

いたため，調査結果における抽出例の合計値は 100 例中からコピュラ文の例を除いた数値[4]となっている．

4.1. 結果

以下に調査結果を提示する．

表 1. ayaa 構文における焦点項

統語的特徴	頻度	割合
A	30	35%
P	23	27%
S	18	21%
副詞	7	8%
適用項	6	7%
その他[5]	1	1%
合計	85	100%

表 2. waxa 構文における焦点項

統語的特徴	頻度	割合
適用項	39	51%
P	26	34%
S	7	9%
A	3	4%
副詞	1	1%
その他	0	0%
合計	76	100%

表 1. および表 2. において提示した結果は以下の傾向を示唆する．

- ayaa 構文において焦点化されやすい要素は S/A/P である
- waxa 構文において焦点化されやすい要素は適用項/P である

調査結果をさらに分類したところ，特筆すべき傾向が 3 点見つかった．

- 補文節の焦点化は waxa 構文のみで観察された
- 不定人称文の P の焦点化は ayaa 構文が好まれ，通常の P の焦点化は waxa 構文が好まれる
- 存在文の S の焦点化は waxa 構文のみで観察された

［補文節］ 抽出した例のうち，P および適用項においては *ín* を主要部とした補文節[6]が 9 例出現し，そのうち全てが waxa 構文により焦点化されていた．このうち 4 例が P，4 例が適用項，1 例が S であった．この傾向は先行研究で提示されている形式的長さおよび構造的複雑性，あるいは waxa 構文において P/適用項が焦点化されやすいという傾向が関連している可能性が高い．

(8) *Falanqaynta hidda-socodka ee dhowaanta waxay caddeysay in xitaa dhaqanka Elmenteitan uu ahaa mid gaar u ah soo saarista Cushitic [...].*

falanqaýn-ta hidda+sócod-ka ee dhowaán-ta wáxa=ay caddee-tay **ín** **xitaa**
analysis-DEF.F gene-DEF.M GEN proximity-DEF.F WAXA=3SG.F.SUBJ prove-3SG.F.PST COMP even
dháqan-ka **Elmenteitan=uu** **ahaa** **míd** **gaár** **ú=ah** **soó=saarís-ta** **Cushitic**
culture-DEF.M PN=3SG.M.SUBJ COP:3SG.M.PRS part special from=COP.PST.RA VEN=production-DEF.F PN

「近頃の遺伝子研究は，エルメンテイタ文化でさえクシ特有の産物であると明らかにしており [...]．」

［不定人称文の P］ ayaa 構文において焦点化される 23 例の P のうち，19 例が不定人称文における P であった．

---

[4] コピュラ文においても焦点構文の交替が見られるが，本稿の調査では非コピュラ文に対象を限定する．
[5] その他の 1 例は条件節である．
[6] ソマリ語の補文節は項として振る舞うという分析が体系として適切である．

一方 waxa 構文において焦点化される 26 例の P のうち，不定人称文における P は 4 例であった (表 3).

(9) *Biyo badan ayaa la waraabiyaa abaqaalka*[7] *ilaa uu ka dheeraado oo midho ka dhalo.*

bíyo badán=ayaa la=waraabi-aa abaqáal-ka iláa=uu ká=dheer-aad-o

water much=AYAA ISP=water-3SG.M.PRS planting-DEF.M in_order=3SG.M in=tall-INC-3SG.M.PRS.DCA

oo midho ká=dhal-o

and fruits in=produce-3SG.M.PRS.DCA

「(田植えの文脈で) 田畑で稲が長く育ち実るよう，たくさんの水が田畑に与えられる．」

表 3. ayaa 構文および waxa 構文が焦点化する P の内訳

	不定人称文の P	通常の P	合計
ayaa	19	4	23
waxa	4	22	26

waxa 構文で焦点化される P のうち，不定人称文の P かつ補文節という 1 例が抽出された.

(10) *Waxaa la weriyey in shiikh cabdille oo sayid maxamed aabihiis ahaa carruurta ugu weynaa.*

wáxaa la=weri-ey **ín shiikh cabdille oo sayid maxamed aábe-kiis ahaa**

WAXA ISP=report-3SG.M.PST COMP PN REL PN father-3SG.M.POSS COP:3SG.M.PST

carruúr-ta ugú wéyn-aa

child-DEF.F most big-3SG.M.PST

「サイイド・マハメドを父とするシェイフ・アブディッレが長男であったと報告されている．」

［存在文の S］ waxa 構文における焦点要素としての S に関して，7 例中 6 例が動詞 *jir-* および *dhici karta* "may falls"[8] に導かれる存在文の S であり，残りの 1 例の動詞は *bilowday* "started" であった. ayaa 構文における焦点項である S の 18 例中，存在文における S は 0 例であった (表 4).

表 4. ayaa 構文および waxa 構文が焦点化する S の内訳

	存在文の S	通常の S	合計
ayaa	0	18	18
waxa	6	1	7

waxa 構文において焦点化される通常の S の 1 例は補文節であった.

(11) *Waxaa bilowday in cudurada faafo karantiil lagu sameeyo [...].*

waxaa bilowd-ay **in cuduro-ta faafo karantiil la=ku=samee-o**

WAXA start-3SG.M.SPT.RA COMP disease.PL-DEF.F spread quaranine ISP=in=make-3SG.PRS.DCA

「人々は感染拡大を踏まえて隔離を行い始め, [...]. 」

［副詞］本稿のコーパス調査では，先行研究の記述では予測されない waxa 構文における副詞の焦点化が 1 例抽出された. (12) の例では *xorriyaddi ka dib* "after the independence" という要素が適用接語なしで生起しているため副詞と分類する他ない．定動詞 *soo labatay* "returned" の直後に位置していることおよび文脈を考慮す

[7] ここでは *abaqaal* は水が与えられる到達点あるいは場所であるため与格 *ú*=あるいは処格 *ká*=が生起すると予想されるが，この例文においては適用接語が生起していない.

[8] 文脈上は存在文に近い例であった.

ると，右方転移による主題化という分析も不適切である．一方で本調査においても 1 例のみの抽出にとどまり，稀な現象であることに変わりない．

(12) *Tiraddaasi waxay soo labatay xorriyaddi ka dib [...].*

tiró-taasi	wáxa=ay	soó=labat-ay	**xorriyád-tií**	**ká=dib**
number-DEF.F.MED.TOP	WAXA=3SG.F.SUBJ	VEN=double-3SG.F.PST	independence-DEF.F.REM	ABL=rear

「(バリ地方ウヌーン地区の人口に関する文脈で) 独立後，数字は戻り [...]．」

5. 議論

［統語的要因］ ayaa 構文において S は 18 例, A は 31 例が焦点化されており, waxa 構文において存在文を除く S は 1 例, A は 3 例にとどまった．一方 waxa 構文において不定人称文を除く P は 22 例，適用項は 39 例, ayaa 構文において不定人称文を除く P は 4 例，適用項は 6 例が焦点化されていた．このことから，焦点化における構成素自体の統語的特徴は構文交替を厳格に制限することはないが，構文選択における傾向が見られた．

［項の性質］ 補文節は waxa 構文により焦点化される例のみが抽出されたが，この結果が長さおよび複雑性によるものか, ayaa 構文における通常の P が避けられる傾向によるものかは現段階では判別が不可能である．一方，補文節が ayaa 構文において焦点化されている例が Saeed (1999) などで挙げられているため, ayaa 構文による焦点化が義務的に回避されるわけではなく，スタイルによる差異のある可能性がある．

［構文の性質］ 不定人称文の P および存在文の S の焦点化においては，通常の P および S において予期されないもう一方の焦点構文が選択される例が多数抽出された．このことは不定人称文および存在文における構文的性質が関係していると推測ができる．筆者は不定人称文に関して waxa 構文の分裂文からの構文化が関係していると現段階で想定しているが，詳細な検討を要する．

Koch (2012) におけるソマリ語の存在文のデータでは=*baa* が用いられており，それらの例における統語構造は ayaa 構文に等しい. Koch (2012) のデータは英語の質問票により採取されたものであり，コーパスに基づいた本調査では異なる結果を示した．

［補文節および構文の性質/統語的特徴］ (10) においては補文節および不定人称文の P, (11) の例においては補文節および非存在文の S というそれぞれ 2 つのステータスを有しており，どちらにおいても waxa 構文が選択されている．さらに追加のデータを取らなければならないが，このことは構文および統語的特徴に関する要請よりも補文節に関する要請の方が強い可能性を示唆する．

［長さと複雑性］ 先行研究で示された長さおよび複雑性との関連は，本調査において採取したデータを用いた検証が困難であった．長さおよび複雑性の関与を検証するためには, ayaa 構文および waxa 構文のどちらにおいても同等のステータスを有する項のモーラ数を測る必要があるが，本調査のデータにおいては，相補分布とまではいかないまでも，提示したパラメータごとに偏って分布していたため環境をコントロールした場合は一方の焦点構文における例が極端に少なくなってしまう．

少ないデータであるが，両構文における焦点要素の A におけるモーラ数は以下の通りである: waxa 構文で

は最小が 10 モーラ，最大が 20 モーラ，平均が 15.3 モーラ[9] (サンプル数 3 例), ayaa 構文では最小が 3 モーラ，最大が 45 モーラ，平均が 12.6 モーラ (サンプル数 21 例[10]).

6. まとめ

本稿は焦点構文の交替に関して以下の記述を補う.

- ayaa 構文において焦点化されやすい要素は S/A/不定人称文の P である
- waxa 構文において焦点化されやすい要素は P/適用項/存在文の S である
- 補文節は waxa 構文において焦点化される強い傾向にある

上記 3 点は，ソマリ語における焦点構文の交替において (i) 統語的要因 (ii) 項の性質 (iii) 構文 (不定人称分/存在文) の性質 という 3 つのレベルが関与して実現することを示唆する．ソマリ語の焦点構文の交替は統語的特徴，項の性質および構文の性質が関連して交替が実現していることが本稿の調査で判明した．長さおよび複雑性との関連はデータのサンプル数を増やした調査を行い，長さおよび複雑性を定義し，定量的に示す必要がある.

略号一覧（Leipzig Glossing Rules にないもの）： - affix boundary / = clitic boundary / AYAA ayaa / DCA dependent clause agreement / INC inchoative / ISP impersonal subject pronoun / MED medial / PN proper noun / RA reduced agreement / REM remote / VEN ventive / WAA waa / WAXA waxa

参考文献： **Andrzejewski**, Bogumił W. (**1975**) The role of indicator particles in Somali. *Afroasiatic Linguistics* 1:123–191. / **Dryer**, Matthew (**2013**) Order of Subject, Object and Verb. In: Matthew S. Dryer & Martin Haspelmath (eds.) WALS Online (v2020.3) [Data set]. Zenodo. https://doi.org/10.5281/zenodo.7385533 (Available online at http://wals.info/chapter/81, Accessed on 2024-01-20.) / **Green**, Christopher (**2021**) *Somali grammar*. Mouton-CASL Grammar Series, 5. Berlin, Boston: De Gruyter Mouton. / **Koch**, Peter (**2012**) Location, existence, and possession: A constructional-typological exploration. *Linguistics* 50(3): 533-603. / **Lecarme**, Jacqueline (**1991**) Focus en somali: syntaxe et interpretation. *Linguistique Africaine* 7: 34-64 / **Leipzig Corpora Collection** (**2021**) Somali Wikipedia corpus based on material from 2021. Leipzig Corpora Collection. Dataset. https://corpora.uni-leipzig.de/en?corpusId=som_wikipedia_2021. / **Mous**, Maarten (**2012**) Cushitic. *The Afroasiatic languages*, 342-422. / **Saeed**, John I. (**1984**) *The Syntax of Focus and Topic in Somali*. Hamburg: Helmut Buske. / **Saeed**, John I. (**1999**) *Somali*. The London Oriental and African Language Library, 10. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamin. / **Satzinger**, Helmut (**2006**) Focus and syntactic status of clauses in Somali and Egyptian. *Loquentes linguis. Studi linguistici e orientali in onore di / Linguistic and Oriental Studies in Honour of / Lingvistikaj kaj orientaj studoj honore al Fabrizio A. Pennacchietti.* Wiesbaden, 639-647. / **Skirgård**, Hedvig et al. (**2023**) Grambank v1.0 (Available online at https://doi.org/10.5281/zenodo.7740140, Accessed on 2024-01-20.)

[9] 少数第二位以下切り捨て.
[10] 英語の固有名詞など，ソマリ語の音韻構造から逸脱する例を除いた数値である.